田能資料館開館50周年記念特別展「田能遺跡の弥生人-田能家の人々-」展示紹介冊子

2020.11.15.　田能遺跡資料館で

田能遺跡の弥生人はどんな人だったのか？ 周辺の遺跡を含め、出土人骨や墓にスポットライトを当てて検討

田能遺跡出土第1号墓▶

尼崎市立歴史博物館田能資料館
開館50周年記念特別展

田能遺跡の弥生人

―田能家の人々―

令和2年
11月3日（火）
～12月20日（日）

はじめに

弥生時代には大陸から渡ってきた人々によって、米づくりや金属器、機織（はたお）りなど新しい文化が伝えられました。彼らは、従来から日本に住んでいた人々と混血していったと考えられています。

大陸の人々の特徴を持った渡来系弥生人は、面長（おもなが）で平坦な顔立ちをしており、身長は高く、一方、在来系弥生人は、顔は短くてほりが深く、身長は低いという縄文人の特徴を持っていました。

では、田能遺跡の弥生人はどのような人々だったのでしょうか？遺跡から出土した人骨や墓にスポットをあて、田能遺跡の弥生人と近隣の弥生遺跡との関係について考えます。

展示に際して、次の機関から貴重な資料をお借りしました。
記して御礼申し上げます。

伊丹市教育委員会
豊中市教育委員会
兵庫県立考古博物館
人間文化研究機構国立歴史民俗博物館

また、人骨の計測にあたり次の機関より計測具をお借りしました。
記して御礼申し上げます。

岡山理科大学生物地球学部環境考古学・古生態人類学研究室

展示解説会と
「弥生時代のアクセサリーをつけよう」

11月8日（日）、11月22日（日）、12月12日（土）
いずれも午後1時30分から
申し込み不要。
検温、マスク持参の上、当日会場にお越しください。

※今後の新型コロナ感染状況によりやむをえず中止となる場合があります。
※資料館HPにてお知らせいたします。

尼崎市立歴史博物館（あまがさきしりつれきしはくぶつかん）　田能資料館（たのしりょうかん）

田能資料館　検索

〒661-0951　兵庫県尼崎市田能6-5-1　休館日：月曜日（月曜日が祝休日の場合は開館し直後の平日を休館）
TEL / FAX　06-6492-1777
http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/manabu/104ama_tano/index.html

主催：尼崎市教育委員会

参考挿入　田能遺跡・口酒井遺跡周辺　かつての猪名川河口域に営まれた弥生時代の遺跡図

和鉄の道・Iron Road 2013「水田稲作の始まり　縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」より

https://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1302kuchinosakai.pdf

2020.11.20.　by Mutsu Nakanishi 挿入

猪名川東岸と伊丹空港に挟まれたかつての猪名川河口域　弥生時代の初め、弥生系と縄文系の人達が交流する数多くの集落があった

尼崎・伊丹・豊中の境界部にある伊丹空港と西側の猪名川に挟まれた狭い地域には　かつて、縄文 晩期から弥生時代にかけて数多くの集落があり、日本各地からやってきた縄文・弥生系の人達が交流したという。

土地・水利をめぐる弥生の戦はあったが、縄文／弥生系の人達は交流・混在・融合しながら、水田耕作の弥生社会を作りげ たという。

こんなことを解き明かす糸口を提供した口酒井遺跡が今、都市化の波の中で忘れ去られようとしている。

2012年12月 田能遺跡で「弥生の鉄」の展覧会があるのを機会に　この田能遺跡とすぐ近く口酒井遺跡を訪ねました。

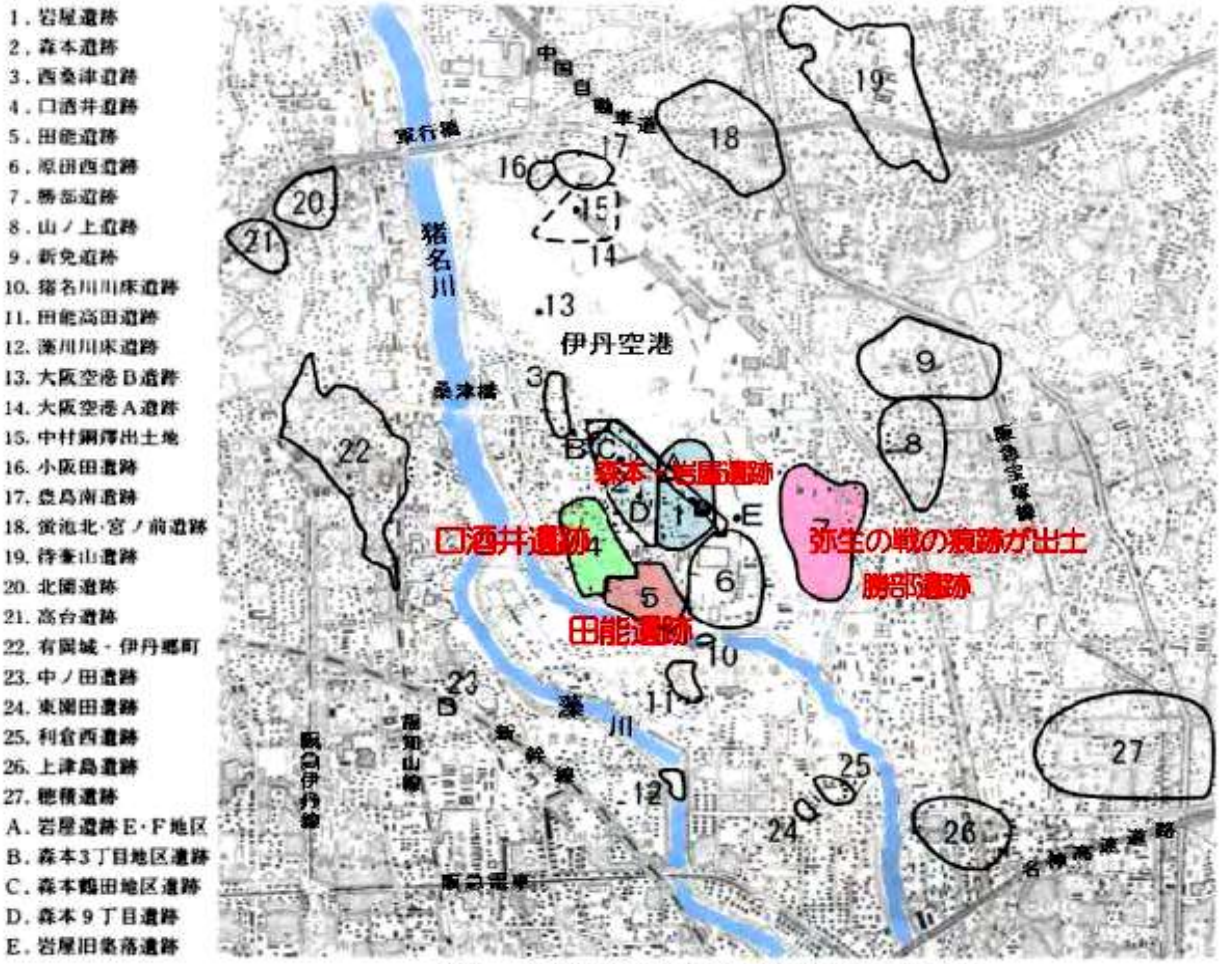
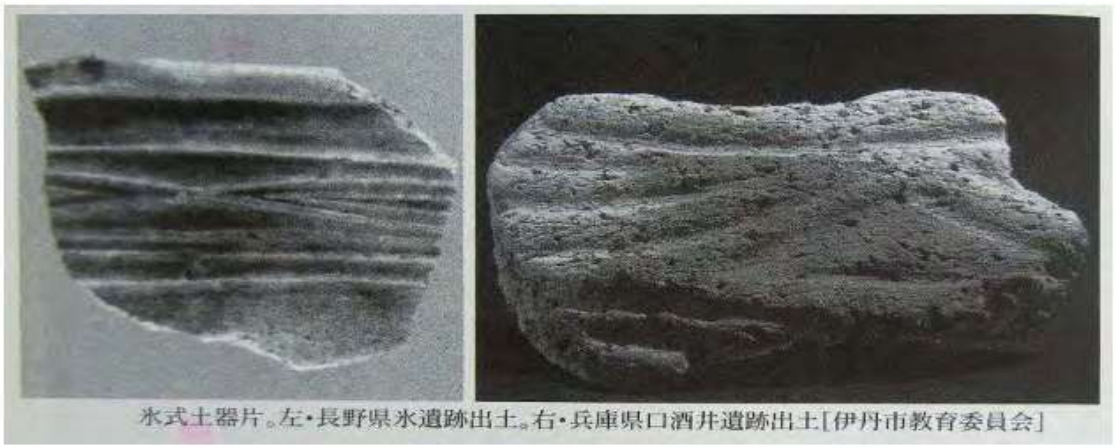


図1　岩屋遺跡と周辺の弥生時代の遺跡（S＝1/50,000）

和鉄の道・Iron Road 2013「水田稲作の始まり　縄文と弥生の融合を示す田能・口酒井遺跡を訪ねる」より

NHK 出版「日本人はるかな旅　第５巻　そして”日本人が生まれた”」によれば、
弥生早期頃、東日本の縄文系の人達がたこの大阪湾沿岸のこの地にやってきて、在来の人達と一緒に生活していたことを初めて解き明かしたのが、口酒井遺跡集落だという。


氷式土器片。左・長野県氷遺跡出土。右・兵庫県口酒井遺跡出土[伊丹市教育委員会]

縄文系の人々の動きを示す土器が発掘された兵庫県の遺跡　口酒井遺跡。約２千３百年前（弥生前期）

上記の写真は　弥生草創期の集落　口酒井遺跡でみつかった東日本の縄文土器の特徴を示す土器片で、この地の土で作られていた。　弥生系の人達にはこのような縄文文様を作る技術はなく、東日本の縄文人たちがこの口酒井遺跡に居住していたと考えるべきだという。　そして、このことを手がかりに西日本の各地に同じような東日本の縄文土器が見つかり、この稲作が伝播してゆくこの頃に、東日本から数多くの縄文系の人達が来ていた証拠だという。
また、一方　反対に　東日本では、突然の稲作集落の出現と共に多数の縄文系土器に混じって、弥生系の土器が出土する。
縄文系の村に弥生系の人が入り込んで、稲作文化が伝播していったという。

上記の写真は　弥生草創期の集落　口酒井遺跡でみつかった東日本の縄文土器の特徴を示す土器片で、この地の土で作られていた。　弥生系の人達にはこのような縄文文様を作る技術はなく、東日本の縄文人たちがこの口酒井遺跡に居住していたと考えるべきだという。　そして、このことを手がかりに西日本の各地に同じような東日本の縄文土器が見つかり、この稲作が伝播してゆくこの頃に、東日本から数多くの縄文系の人達が来ていた証拠だという。
また、一方　反対に　東日本では、突然の稲作集落の出現と共に多数の縄文系土器に混じって、弥生系の土器が出土する。
縄文系の村に弥生系の人が入り込んで、稲作文化が伝播していったという。

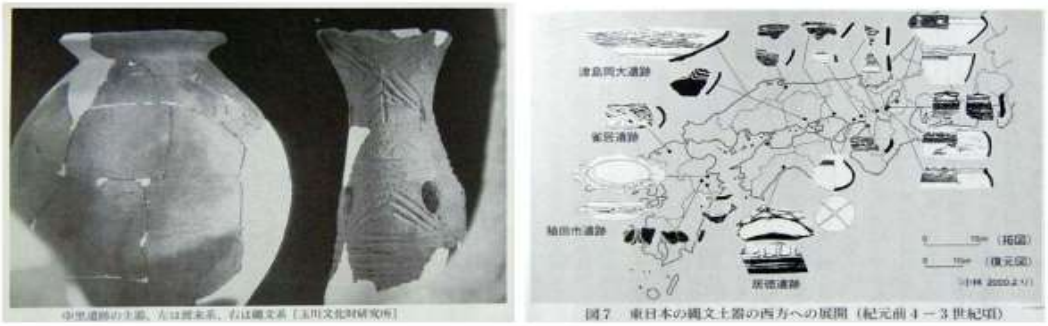


図7　東日本の縄文土器の西方への展開（紀元前４－３世紀頃）

そんな　縄文と弥生の人達の交流・文化融合を始めて解き明かしたのが、口酒井遺跡だという。
このような縄文系・弥生系の人達の融合による日本人の形成については日本人の DNA 分析からも明らかになっている。

「水田稲作の弥生時代は鉄器・戦さの時代　渡来系弥生人が縄文人を駆逐して水田稲作の文化を日本列島に広げていった」と位置づけられた時代もあったが、猪名川河口域の縄文晩期・弥生の集落群が、そんな弥生の始まりの時代感に疑問を投げかけるきっかけとなったのが、この「口酒井遺跡」である

籾が付いていた口酒井遺跡出土土器

日本人の心に脈々と流れる「共に生きる心優しき日本」。コロナ禍の中で、今の生き方を見つめなおす一助になればと。
そんな思いも込めて、今回の田能遺跡特別展を眺めました。
特別展展示内容全体をコンパクトにまとめ、人骨等の解析から、渡来系弥生人と縄文系の人たちが同じ集落に住んで、新しい弥生を時代築いていったとみてとれることをまとめた貴重な小冊子。
そのまま私の記録資料として以下に取り込み記載記録しました。　　2020.11.20.　by Mutsu Na

第１章　縄文人と弥生人

縄文人

彫りが深い

目が大きい

二重まぶた

大きな耳たぶ

ひげが濃い

縄文時代人　左：女性　右：男性

［イラスト：石井礼子氏 / 国立歴史民俗博物館提供］

弥生時代人　左：女性　右：男性

(渡来系)弥生人

面長

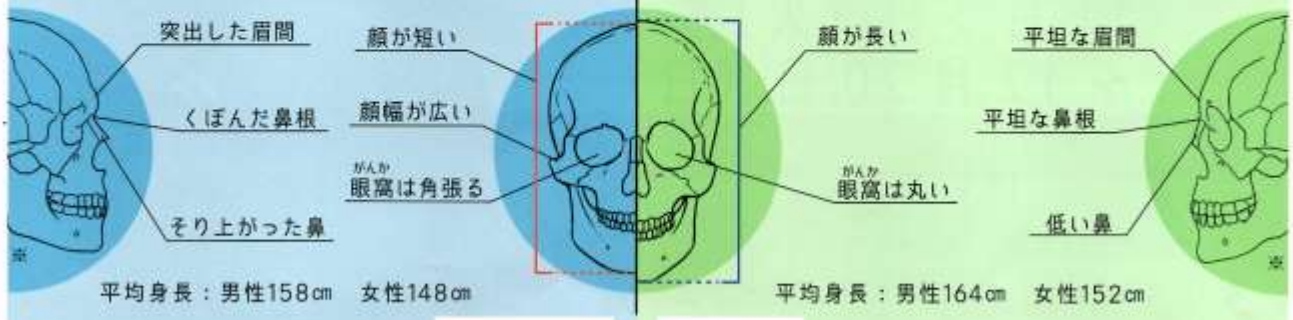
のっぺり顔

まぶたは厚い

目は細い

唇は薄い

ひげなどは薄い



平均身長：男性158㎝　女性148㎝

平均身長：男性164㎝　女性152㎝

縄文人的な歯のかみ合わせ

上下の前歯がしっかりかみ合う

弥生人的な歯のかみ合わせ

上の前歯が下の前歯にかぶさる

Brothwell 1981『Digging up Bones』より引用

※中橋孝博 2019『日本人の起源 人類誕生から縄文・弥生へ』を基に作成

第２章　田能遺跡の弥生人　ー田能家の人々ー

方形周溝墓が３基と、木棺墓８基・木蓋土壙墓５基・土器棺墓４基の計 17 基の埋葬施設が見つかっています。

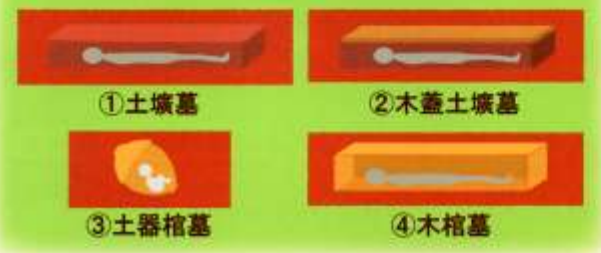
時期は大きく分けて弥生時代中期と弥生時代後期～古墳時代初めです。

特に第３号方形周溝墓から見つかった第 16 号墓、第17号墓からは豪華な装飾品を身につけた人骨が見つかりました。

田能遺跡第４調査区

埋葬方法について

田能遺跡の墓には①土壙墓②木蓋土壙墓③土器棺墓④木棺墓の４種類の埋葬方法があります。③の土器棺は、赤ちゃんが亡くなった時に棺として用いられています。

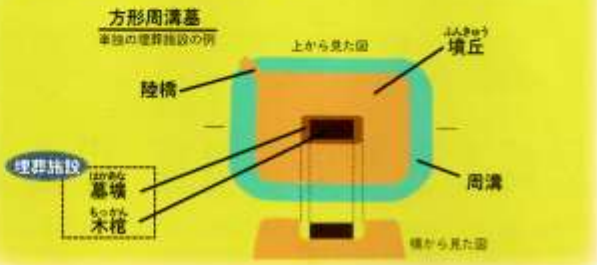


①土壙墓　②木蓋土壙墓

③土器棺墓　④木棺墓

方形周溝墓と埋葬施設

方形周溝墓は、方形の墳丘の周囲を溝で囲んだ弥生時代に見られる墓です。墳丘には埋葬施設が単独のものや、複数のものがあります。



木棺墓（もっかんぼ）

：男　：女　：子ども　：性別不明　頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

後期 第2号墓

展示

身長：不明
年齢：17～25歳
性別：不明

中期 第6号墓

身長：153cm
年齢：10歳程度 ※
性別：女

後期 第8号墓

身長：163cm
年齢：40歳前後
性別：男

後期 第13号墓

身長：不明
年齢：20～40歳
性別：男？

※歯の観察から成人女性という見解もあります。

埋葬姿勢

体は上向きで足を伸ばした状態で葬られたものを仰臥伸展葬（ぎょうがしんてんそう）といいます。田能遺跡では、ほとんどが仰臥伸展葬ですが、第16号墓だけが膝を立てた上向きで埋葬されていました。

豪華な装飾品をつけた弥生人たち

＜第3方形周溝墓＞墳丘部：1辺約19m（周溝含めて1辺約26m）

第16号墓 中期

身長：160cm　年齢：20～40歳
性別：男
埋葬姿勢：仰臥屈脚葬
632個の碧玉製管玉
棺内で水銀朱検出

碧玉製管玉出土状況

碧玉製管玉
（県指定文化財）

第17号墓 中期

身長：160cm
年齢：20～40歳
性別：男
左腕に白銅製釧
棺内で水銀朱検出

白銅製釧出土状況

白銅製釧
（県指定文化財）

木蓋土壙墓（もくがいどこうぼ）

後期 第11号墓

身長：145cm　性別、年齢不明
下半身のみが見つかりました。

後期 第7号墓

展示

身長：147cm
年齢：25～35歳
性別：女
噛み合わせ：縄文人的

後期 第15号墓

身長：145cm以上　年齢：18歳以上
性別：女？　噛み合わせ：縄文人的

55年目の真実！！ ー骨考古学の学芸員が見た1号墓・3号墓

：男　：女　：子ども　：性別不明
頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

第1号墓　年齢：40歳前後　性別：男

後期　推定身長：153.5cm

出土部位模式図

顔は右向き。

乾燥によるひび割れ。

展示

こう見えています…

骨の下に土器片が。遺体を入れる前に土器片がまかれています。

止まっていたタイマーは、動き出している…

掘り起こされた瞬間から人骨の劣化ははじまります。発掘当初白かった骨も土と同じ色へと変わりました。人は土へとかえっていきます。

第3号墓　年齢：成人　性別：女

後期　推定身長：147.5cm

出土部位模式図

顔を左に向けて、口を開けています。

右腕は折り曲げています。

膝が内側に向いて足がそろっています。

1号と同様に土壙内に土器片がまかれています。

展示

鎖骨が急角度で傾き、肩を上げた姿勢。墓壙が狭く、人一人はいるにはきゅうくつだった。

土器棺墓（どきかんぼ）

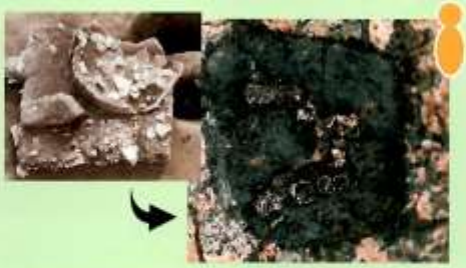
：男　：女　：子ども　：性別不明　頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

中期 第10号墓（壺棺墓）

年齢：乳児

頭蓋骨が壺の上方にあることから、遺体は足を下にして壺棺に入れたことが分かります。土器内部には丹（赤色顔料）がありました。

後期 第12号墓（壺棺墓）年齢：2～3歳



幼児の上下顎と乳歯が残っていました。

中期 第20号墓（壺棺墓）

年齢：胎児もしくは乳児

第9号墓（甕棺墓）には人骨は残っていませんでしたが、土器内部に丹がありました。

第3章　勝部遺跡の弥生人

2基の方形周溝墓に木棺墓8基・土壙墓3基・土器棺墓3基の計14基の埋葬施設が見つかっています。

時期は2基とも弥生時代中期です。

第2号墓、第4号墓、第7号墓から石鏃、第3号墓からは石槍が見つかり、争いの犠牲となったと考えられています。

第1区墓域

第2区墓域

争いの犠牲となった弥生人

第2号墓 中期

身長：不明　埋葬姿勢：不明

墓：土壙墓

頭部は破壊されており、肋骨も乱れています。5個の石鏃が発見され、うち2点は先端が肋骨と腰骨に向くので刺さっていたと思われます。

石槍が刺さっています。

第3号墓 中期

身長：145cm？

埋葬姿勢：仰臥伸展葬

墓：木棺墓

頭部は故意に破壊されたように見えます。胸骨と腰骨に食い込むように石槍が残存していることから、右後方から刺されたと考えられます。

第4号墓 中期

身長：不明

埋葬姿勢：仰臥屈脚葬

墓：木棺墓

足付近から石鏃が1点見つかっています。

第7号墓 中期

身長：不明

埋葬姿勢：仰臥伸展葬？

墓：木棺墓

棺の中央付近から石鏃が1点見つかっています。

勝部遺跡の資料はすべて豊中市教育委員会所蔵。写真は特に記載のない限り豊中市教育委員会提供。

♂：男　♀：女　：子ども　：性別不明　頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

第１号墓 中期

身長：160cm くらい
年齢：30 ～ 40 歳
性別：男
埋葬姿勢：仰臥伸展葬
墓：木棺墓

第６号墓 中期　墓：木棺墓

第８号墓 中期

性別：男　墓：土壙墓

大腿骨に柱状突起があるため、筋力の多い人物であると考えられます。

第10号墓 中期

年齢：子ども
墓：木棺墓

残存しているのは歯と一部の顎の骨のみで、その成長度から子どもと考えられます。

第９号墓 中期

展示

身長：152 ～ 154.2cm
年齢：成人
性別：女
埋葬姿勢：仰臥屈脚葬
墓：木棺墓

勝部遺跡出土人骨の中でもっとも残存状態が良好です。

上腕骨、大腿骨、脛骨を計測し、身長を復元することができました（152 ～ 154 ㎝）。また、寛骨の形から女性ということがわかりました。

骨格は正常な位置から大きく動き、関節はつながっていません。これは遺体が完全に白骨化したのち、棺内に水などが流入したためと考えられます。

出土部位模式図

寛骨の性差
※Brothwell 1981『Digging up Bones』より引用

計測値から求めた身長の復元結果

	身長（cm）		計測値（mm）	
	右	左	右	左
上腕骨	152.0	—	297	—
大腿骨	154.2	153.1	416	(409)
脛骨	152	—	337	—

（ ）内は復元計測値。計算式は藤井の式（藤井明 1960『順天堂大学体育学部紀要 3』）を使用

計測はすべて「マルチン式人骨計測法」（人類学講座編纂委員会 1991『人類学講座 別巻 1』）に基づいて行いました。

［豊中市教育委員会蔵 / 当館撮影］

勝部遺跡の資料はすべて豊中市教育委員会所蔵。写真は特に記載のない限り豊中市教育委員会提供。
当館撮影の写真については所蔵先に掲載の許可をいただいています。

：男　：女　：子ども　：性別不明　頭部の方角は頭位を表す　：墓の時期

第 12 号墓（甕棺墓）中期

甕棺

底部に人骨らしき石灰粒が残っていました。土器の下部に孔があけられています。

第 13 号墓（甕棺墓）中期

左：甕棺（蓋）　右：甕棺（身）

土器の下腹部に孔があけられています。

甕棺（身）裏

第 14 号墓（壺棺墓）中期

左：壺棺（蓋をした状態）　右：壺棺（蓋を外した状態）

土器の下部に孔があけられています。

勝部遺跡の資料はすべて豊中市教育委員会所蔵 / 写真提供

第 4 章　原田西遺跡の弥生人

昭和 50 年～ 58 年の調査では南地区 3 基、東地区 10 基、平成 15 年度の調査で 1 基、合計 14 基の方形周溝墓から 5 基の埋葬施設が見つかっており、うち 3 つからは木棺とその破片が見つかっています。

時期は弥生時代中期で、人骨は見つかっていません。多くの周溝墓に陸橋があります。

昭和 56 年度調査地区全景

方形周溝墓 SX3

SX3 主体部 2（木棺墓）

方形周溝墓出土の土器について

原田西遺跡の方形周溝墓群出土の土器には同時期の土器であるにも関わらず、新しい文様（凹線文）を施した土器と古い文様（櫛描き文）のみを施した土器が共に出土しています。これは田能遺跡や口酒井遺跡とは異なった特徴です。新しい文様を持つ土器と、古い文様のみを持つ土器が長期にわたり共に出土することを考えると、原田西遺跡の人々は葬送儀礼において昔ながらの伝統を引き継いでいたのかもしれません。

原田西遺跡方形周溝墓出土弥生土器
［兵庫県立考古博物館蔵 / 当館撮影］

原田西遺跡の資料はすべて兵庫県立考古博物館所蔵。写真については特に記載のない限り兵庫県立考古博物館提供。
当館撮影の写真については所蔵先に掲載の許可をいただいています。

第 5 章　口酒井遺跡の弥生人

円形周溝墓 5 基、方形周溝墓 2 基と、木棺墓 6 基・土壙墓 3 基・壺棺墓 7 基、土壙墓あるいは土器棺墓と考えられるもの 1 基の計 17 基の埋葬施設が見つかっています。

時期は弥生時代前期から後期で、木棺墓から人の歯が見つかりました。

第 9 次調査　円形周溝墓

第 25 次調査　全景

木棺墓 1 前期

歯のみ残存

朱があり

木棺墓 3 前期

歯のみ残存

頭部付近に石鏃が出土

木棺墓 4 前期

年齢：10 ～ 14 歳　性別：女？

歯のみ残存

土壙墓 SK-6 中期

歯のみ残存

口酒井遺跡出土資料はすべて伊丹市教育委員会所蔵。写真については報告書より転載。

弥生時代の葬送儀礼？

口酒井遺跡からは、当時の葬送儀礼を示す壷と甕が見つかりました。壷や甕の中から河原石と炭が見つかっており、壷（G52）の中からはコウヤマキの炭が見つかりました。炭は土器の中で燃やされたもので、葬送儀礼の一行為だと思われます。

壷の中から見つかった炭と河原石
［口酒井遺跡報告書より転載］

口酒井遺跡出土弥生土器
［伊丹市教育委員会蔵／当館撮影］

穴があけられている土器

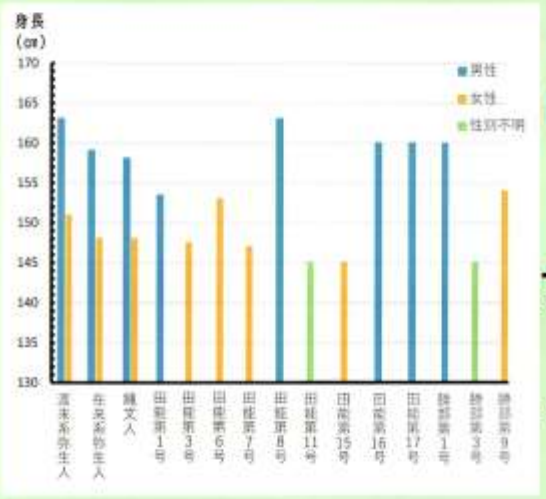
墓から出土する土器には穴があけられているものが多くみられます。穴をあけることで土器は使えなくなるため、葬送儀礼に使われたと考えられます。

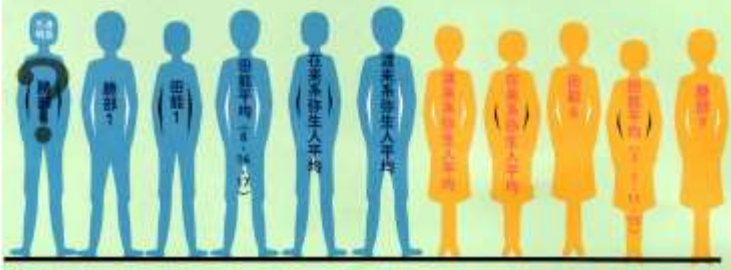
口酒井遺跡出土弥生土器
［伊丹市教育委員会蔵／当館撮影］

当館撮影の写真については所蔵先に掲載の許可をいただいています。

第６章　さいごに　ー田能家の人々と周辺の人々ー

弥生人の平均身長と田能遺跡・勝部遺跡の弥生人の身長





男性
- 在来系の平均より高い
- 一部在来系の平均より低い（田能１）

女性
- 在来系の平均より低い
- 性別不明（田能11・勝部３）は身長から女性の可能性
- 渡来系よりも高い（田能６・勝部９）

田能遺跡と勝部遺跡の出土人骨について

田能第８号・第６号や、勝部第９号のような高身長の人物がいる一方で、田能第７号・15号では歯のかみ合わせ、勝部第８号では大腿骨に柱状突起をもつなど縄文人の特徴をもっていた人がいます。近畿地方では、在来系弥生人と渡来系弥生人が混在しているとの研究結果もあり、田能遺跡と勝部遺跡もこのような状況を示していることがわかります。

各遺跡のまとめ

田能遺跡…渡来系と在来系が混在していました。大規模な埋葬施設と豪華な装飾品を身に着けた人物がいました。

勝部遺跡…渡来系と在来系が混在していました。争いの犠牲者の墓があります。

原田西遺跡…方形周溝墓に供えた土器には古い文様のみで装飾された土器が長い間使われていました。これは田能遺跡、口酒井遺跡とは異なります。方形周溝墓には陸橋があります。

口酒井遺跡…周辺遺跡で唯一、円形周溝墓が見つかっており、弥生時代の葬送儀礼の一端がわかります。

主な参考文献

尼崎市教育委員会 1982『尼崎市文化財調査報告第 15 集　田能遺跡発掘調査報告書』
伊丹市教育委員会 1995『伊丹市埋蔵文化財調査報告書第 20 集　口酒井遺跡発掘調査報告書　第 22・25 次調査』
伊丹市教育委員会・六甲山麓遺跡調査会 2000『口酒井遺跡ー第１次～第 10 次・第 12 次～第 16 次調査の概要ー』
豊中市教育委員会 1972『勝部遺跡』
兵庫県教育委員会 2009『兵庫県文化財調査報告第 361 冊　原田西遺跡ー猪名川流域下水処理場における急速ろ過施設に伴う発掘調査報告書ー』

尼崎市立 田能資料館

田能遺跡は、一九六五（昭和四〇）年の工事中にたくさんの弥生土器が出てきたことで、発見されました。急いで調査をした結果、今から約二千年前の弥生時代の人びとがくらしていた跡や使っていた道具などが見つかりました。
弥生時代について多くのことを教えてくれるとても大切な遺跡であることから、工事を変更して遺跡の一部を地下に保存し、その上に資料館を造りました。弥生時代のくらしを見たり体験できたりするところです。

開館時間：午前10時～午後5時（ただし、入館は午後4時30分まで）
休館日：月曜日（月曜日が祝休日の場合はその直後の平日）・年末年始（12／29～1／3）
入館料：無料　ホームページ：尼崎市公式ホームページから「田能資料館」を検索
〒661-0951　兵庫県尼崎市田能6-5-1　電話・FAX：06-6492-1777
Eメール：ama-tanosiryokan@city.amagasaki.hyogo.jp

古代のくらし体験！

田能資料館では子どもから大人まで参加できる「古代のくらし体験学習会」を行っています。ぜひ参加してね（申し込みが必要だよ）。

主な体験学習会
- 勾玉づくり　・古代米づくり
- 弥生体験（※小学4～6年生対象）
- 石鏃づくり　・青銅器づくり
- 弥生土器づくり

（詳しくは田能資料館ホームページや情報誌などをチェックしてね）

田能遺跡サポーター倶楽部

平成27年度の復元住居の屋根の葺き替えをきっかけに、ボランティアとして田能資料館の事業をサポートしています。団体見学の小学生に土器の説明をしたり、古代のくらし体験学習会では、製作のサポートをしています。学習会のために事前練習をしたり、収蔵する土器の整理をしたり、来館者に喜んでいただけるように、活発に活動しています。

土器整理作業

学習会でのサポート

利用案内

開館時間　午前10時から午後5時（入館は4時30分まで）
休館日　月曜日（ただし、月曜日が祝休日の場合は開館し、その直後の平日を休館）・年末年始（12/29～1/3）
入館料　無料（ご希望により説明を致します。）
・団体でお越しの際は事前にお申し込みください。
・大型バスは田能口からは入れません。

交通案内

電車

阪急園田駅前から、阪神バスJR尼崎（?）ゆき・阪急塚口ゆき・阪神尼崎ゆき、ともに「田能口」下車、徒歩15分

JR猪名寺駅前から、阪神バス東園田ゆき「田能西」下車、徒歩10分

阪急曽根駅前から、阪急バスグリーンランドゆき終点下車、徒歩5分

阪急伊丹駅前から、伊丹市バス岩屋循環「グリーンランド」下車、徒歩5分

車

名神高速豊中ICから北西約3km

尼崎市立田能資料館
〒661-0951　兵庫県尼崎市田能6-5-1
TEL/FAX 06-6492-1777　田能資料館　検索

田能資料館開館までの道のり

田能遺跡の発見

昭和40年9月、尼崎市田能字中ノ坪（現在の田能六丁目）で尼崎、伊丹、西宮三市共同による工業用水園田配水場建設工事現場から、偶然大量の弥生土器が発見されました。

10月から約1年間の発掘調査では、大量の土器や石器のほか、碧玉製管玉、白銅製釧、銅剣鋳型（3件は県指定文化財）など大変貴重な遺物が出土し、田能遺跡と名付けられました。

とくに、人骨を伴う木棺墓や壺棺墓の発見は、弥生時代の墓や埋葬方法がわかる貴重な発見となりました。しかし、調査終了後は配水場建設によって破壊される予定となっていました。

発掘調査 ―全国の考古学の研究者に助けられて―

発掘当時、調査体制は整っておらず、遺跡の規模に比べて考古学の専門調査員が不足していました。調査の統括者は、調査員を確保するため、考古学会で、遺跡と調査員の不足を呼び掛けると、全国から多くの若い調査員が集まりました。

調査風景

保存運動 ―はじまりは市民のやさしさから―

市民による炊き出し

一方、発掘現場では、弥生人の墓を見ようと連日多くの人々が詰めかけました。

全国から集まった若い調査員たちが、暑さ寒さの中、懸命に働く姿を、じっと見つめる市民がいました。彼らはその姿に心打たれ、差し入れや炊き出しをして、調査員を支援しました。

やがてこの支援は、遺跡の保存運動へと広がっていきました。

資料館の開館 ―市民の思いが実る―

この熱心な保存運動によって、墓の出土地域は保存が決定され、昭和44年6月30日には、国の史跡に指定されました。昭和45年7月25日、市民の思いは結実し、ついに田能資料館が開館しました。阪神間でも、非常に早い時期の資料館の誕生です。

屋外には復元住居や高床倉庫のほか、墓を復元しています。

田能遺跡について

弥生時代は、今から2400年前（3000年前の説もあります）から1700年前、日本に稲作、鉄器や青銅器などの新しい文化が中国大陸や朝鮮半島から伝わった時代です。田能遺跡には弥生時代の全期間をとおして、人々が暮らしていました。

昭和40年当時、近畿地方ではほとんど出土例がなかった墓が人骨とともに発見され、弥生時代の墓制に新たな知見が加わりました。とくに、632個の碧玉製管玉の首飾りや左腕に白銅製釧（腕輪）をつけた人々の発見は、田能の集落に指導者がいたと推定することができます。また、銅剣の鋳型は近畿地方で初めて発見され、1000度以上の高温で青銅を鋳造する高度な技術をもつ者がいた可能性を示す貴重な発見でした。

当時田能の集落は猪名川の河口に位置していたため、豪華な副葬品をもっていた人々は、ここで物資を集積し、近隣の集落に物資を差配する権限と役割を担っていたのではないかと考えられています。

白銅製釧

碧玉製管玉
兵庫県指定文化財

銅剣鋳型

展示・事業案内

常設展示室内

田能遺跡から出土した土器などの遺物や、発掘現場から切り取って保存した弥生時代の墓も展示しています。年に1回、テーマに沿って近隣の市町から貴重な資料を借りて展示する「特別展」のほか、学習展示などの「企画展」を開催しています。

弥生時代中期の土器

古代のくらし体験学習会

当館では、昭和46年から体験・参加型の「古代のくらし体験学習会」を開催しています。

弥生土器づくりや、青銅器づくり、石のやじりづくり、勾玉づくりなどを実施し、古代のくらしについて学ぶ機会としています。

弥生土器づくり

青銅器（銅鏡）づくり